

令和4年度なは市民協働大学だよ！



第4回「コロナ禍でのチャレンジ！防災・福祉の地域づくり」 ～繁多川1丁目フィールドワーク～

去る10月15日（土）は、繁多川1丁目のフィールドワークを行いました。災害時の避難や普段の安心のために、地域住民が支え合える関係を目指した「繁多川地域計画」づくりに関わる方々をガイドに地域を歩きました。元々原野だったこの地域に戦後、やんばるなどから多くの人々が移って来て、急速に家が建ったことで、道が狭く、坂が多く、行き止まりも多い地域となった歴史については、9月21日（水）の座学で学んでいました。

繁多川1丁目の中心的な場所である県営繁多川高層住宅を発着点に、スーパーかねひで、松川との境、沖縄工業高校の方まで、とエリアごとに4チームで歩きました。マンション建設や新しい家もある一方、古い木造の家やコンクリート剥離のある家、空き家などの家々が密集していました。歩道がない段差のある道で頻繁に車とすれ違う緊張感、車両は入れない人しか通れない幅の道、急な坂道の多さに、高齢者や障がい者の方にはきついただろうなと感じながら、「これが密集市街地なんだ」と体感しました。住民でもある参加者は、「これが普通と思っていたので、よその地域の受講生の驚きように逆に驚いた」と語っていました。



県営繁多川
高層住宅





緊急車両が入れない道沿いのお宅の火事で亡くなった方がいることや避難所までの道が実は冠水するなど地域の方のお話を聞きました。また、受講生に電動車椅子ユーザーの方がおり、ガイドに熱心に質問をしておられました。



フィールドワーク後、見てきた危険や課題となるポイントの改善策をチームで話し合いました。住民でできる声掛けや草刈り、関係者を集めた会議の開催、自主防災組織の立ち上げ、ブロック塀建て替えの行政からの補助など、いくつかの改善策が出て発表しました。

今回のねらいの「密集市街地の現状を知る」「地域住民、地域団体、行政ができること、又それらの協働を考えてみる」は、実際に歩き、話し合ったことである程度達成されたものと思います。

<受講生満足度：事後アンケートより>

回答 21 名中：「満足」19 名、「やや満足」2 名。「やや不満」、「不満」は無し。

<受講生の感想：事後アンケートより（抜粋）>

☆私有地が住民の抜け道になっていることに驚いた。抜け道の境にあるブロック塀の段差が危険だったが、改善するにも私有地の持ち主との調整等、課題もあることが分かった。しかし草刈りなど住民ができることも多くあるので行政と地域が手を取る必要性を感じることができました。

☆今回のフィールドワークを参考に自分の地域で何ができるか組織作り等考えていきたい。

【次回】なは市民協働大学第5回のご案内

日 時：令和4年11月16日（水）19時～21時

会 場：なは市民協働プラザ2階 なは市民活動支援センター会議室②③

内 容：住民をつなぐ！地域コミュニティづくり

講 師：銘苅新都心自治会長 前原信達 氏、松島自治会長 西平博人 氏



(担当) 小波津、與那覇、渡嘉敷 Tel.861-5024 メール：C-KATU005@city.naha.lg.jp